

< 武蔵野市：コミュニティバス（ムーバス） >

施策名	コミュニティバス（ムーバス）
取り組みの背景	背景 1：交通空白・不便地域の存在（市内に 5 箇所） 背景 2：高齢化の進展（検討を開始した平成 3 年 1 月時点で 11.7%）
地域の交通環境問題 行政・市民ニーズ 交通基盤シーズ など	
目的・ねらい	目的・ねらい：市民のモビリティ（移動のし易さ）の確保 （交通空白・不便地域を解消し、高齢者・妊産婦・乳幼児連れの方などの交通弱者をはじめ全ての人が気軽に安全にまちに出られるようにすること）
目的・ねらい 対象交通 など	
取り組みの経緯	平成元年頃 住宅地内での交通不便を訴える手紙が市長に届く 平成 2 年 11 月 シンポジウムで市長がコミュニティバスを提言 平成 3 年 10 月～ 市民交通システム検討委員会（交通計画及びコミュニティバスの試行を長期計画に編入） 平成 5 年 6 月～ コミュニティバス実施検討委員会（実施地域・システムの検討） 平成 6 年 7 月～ コミュニティバス推進委員会（規制への対応等細目の検討） 平成 7 年 9 月 地元説明会 平成 7 年 11 月 路線免許取得・無料デモ走行（2 日）・運行開始
経緯・熟度 など	
主体・広報・費用	事業主体：武蔵野市 運行主体：関東バス(株)（1・2・4 号路線）、小田急バス(株)（3 号路線） 検討組織：上記の 3 委員会 学識経験者・運輸省・警視庁・東京都・バス会社・バス協会・公認会計士 広報：市報、コミュニティ FM、ケーブルテレビ等、ポスター等での広報・住民説明会・無料デモ走行。 費用負担： 市：バス、バス停、交通安全措置、自動車損害賠償責任保険、運行収支が赤字の場合の補助金による補填 事業者：人件費、燃料費、車両修繕費、強制保険以外の全ての責任
実施主体 検討組織 広報スケジュール 費用負担 など	

実施概要	対象地域：武蔵野市
対象地域 実施日時 施策内容 など	実施日時：年中無休 施策内容：交通空白不便地域と駅を結ぶバスを4路線運行 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大型バスが入れない住宅街の狭い道をミニバスで運行 ・ バス停は、高齢者の歩行距離を考慮して、市内の従来のバスの半分の200m間隔で設置 ・ 地上高15cmの電動ステップ、握りやすい細い握り棒などの装置 ・ 荷物が多い時でも取り出しやすく安いワンコイン100円の料金
効果測定内容	効果測定内容：乗客数
測定内容 効果把握 など	既存交通機関の利用比率の減少率（ムーバス乗客に、最も多く利用している交通機関をムーバス運行前と運行後について聞いた） 効果把握結果：14年度（14年4月～15年2月） 1日5075人、合計169万4962人 自家用車 2.5%（3.5%から1.0%へ） タクシー 3.1%（3.4%から0.3%へ） 一般バス 16.8%（22.2%から5.4%へ）
取組上の課題	課題1：残っている交通不便地域での導入
合意形成 費用負担 など	課題2：車両のバリアフリー化の徹底 課題3：車両の低公害化の徹底 課題4：ルート決定過程での合意形成
その他特記事項	
今後の方向性 地域指定等	

以上

都道府県市名：東京都武蔵野市
 担当部局名：都市整備部交通対策課